

第8講 発表と質疑

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 発表と質疑応答 ; 録画の見直しとふりかえり

1 発表と質疑応答

次回から、各論文の担当 (決定済) にしたがって、発表を進めていきます。

- 発表者は、提示用のスライドのほか、配布用ハンドアウト (前回資料) と、スライドを圧縮印刷したものを人数分用意。
- 発表時間は10分 (±30秒)。プロジェクタのタイマーで、各自でコントロールすること。
- 発表後に、20分程度質疑応答。この質疑の時に何を質問するかを考えながら発表を聞くこと。
- 各自、発表や資料に対するコメントを書いて発表者に渡すこと (圧縮印刷スライドまたは別紙に)

2 録画

発表内容は、観察室のカメラで録画します。発表者は、授業開始前に準備しておいてください。

- 授業観察システムの電源を入れる。
- 授業観察システムの電源を入れる。
- 録画用PCを起動し、Victor DV デッキ背面からのUSBケーブルをつなぐ
- 録画対象にカメラ1を選ぶ
- コントローラでカメラ1を操作し、適切な設定にする
 - Autoを切って、手動設定にする
 - カメラ1を選択
 - 位置とズームを調整
 - 焦点をオートフォーカスに
 - Irisをいちばん暗く絞る
- 録画用PCでPowerDirectorを起動。カメラ1の画像と音声が入っていることを確認する
- PowerDirector画面の録画ボタン (赤丸) を押すと録画開始

3 録画の見直しと振り返り

授業終了後に、録画を停止し、自分のプレゼンテーション部分を切り取ってファイルを作成。

1週間の間に、当日の担当者2名で録画を見直して振り返り、連名で感想と反省点を書いた文書を作成し、次回授業時に提出。つぎのような内容を考えて書くこと(全部含めなくてもよい)

3.1 準備について

- 内容をどうやって組み立てたか
- どういう練習をしたか
- 原稿・メモなどをどうしたか
- スライド合計枚数と時間配分計画

3.2 当日のプレゼンテーションについて

- 構成についての反省点
- 提示資料についての反省点
- 配布資料についての反省点
- 練習にくらべて本番はどう違ったか(緊張した、早くなった、おそくなった、など)
- シャベリ方、発音についての反省点
- 身体の動きについての反省点
- 時間配分の点で失敗したところはないか
- 事前準備が必要だったことにあとから気付いたことはないか

3.3 質疑

- 質疑応答の際にうまくいかなかった部分はあるか
- その問題はどのようにすれば回避できるか

3.4 その他

- 次回プレゼンテーションでは、どのようなことを重点的に改善したいか
- (2回目以降の場合)1回目とくらべて意識的に改善しようとしたこと;よくなった点と悪くなった点